

まうあを まよせいぞ

Vol.16

rcrc.ryukoku.ac.jp

〔発行日〕

2023年9月8日

〔編集・発行〕

龍谷大学 矯正・保護総合センター



2022-2023年の活動を振り返って

龍谷大学

矯正・保護総合センター長

浜井 浩一

矯正・保護総合センター長となって5年目を迎えました。慣例に従い2022年を振り返りつつ、この1年間のセンターの活動についてご報告させていただきます。

当センターは、矯正や更生保護に関する教育実践としての矯正・保護課程と研究としての矯正・保護研究センターを統合し、新たに社会貢献活動を付け加えて2010年に開設されました。

2022年度の教育活動としては、新型コロナウイルスによるパンデミックが収束する方向に向かっていくことから、矯正・保護課程の講義もそのほとんどにおいて対面授業が復活し、2022年度の延べ受講者数は前年度より442名多い、2,408名となりました。また、コロナ禍でのオンライン授業の経験を生かして、2023年度から矯正・保護課程の科目の一部を社会人向けにオンライン（オンデマンド）で提供することで、受講生の都合に合わせて受講できるようにするなど新たな教育実践を行います。

研究活動については、前年度から3年計画の新規・大型事業として團藤文庫資料整理事業が始まり、丸善雄松堂株式会社との業務委託契約によって文庫の整理作業が進んでいます。團藤文庫プロジェクトについては、NHKと共同研究を進めており、その成果の一端がNHK・ETV特集「誰のための司法か～團藤重光 最高裁・事件ノート～」にまとめられ2023年4月15日に放送されました。また、プロジェクトの成果は、石塚伸一 編著『刑事司法記録の保存と閲覧』（日本評論社）の中に論文として発表されています。実証研究プロジェクトでは、科学研究費（基盤研究(B)）を獲得したISR（国際自己申告非行調査）の研究結果が、ヨーロッパ犯罪学会や日本犯罪社会学会の年次大会において報告されました。また、2023年3月3日には、法務省が企画した「令和4年度刑事司法に関する統計共同研究」により来日し、龍谷大学を訪問したモンゴル国立法律研究所及びウズベキスタン共和国法執行アカデミーの研究員に対して、センター長浜井が刑事司法統計を活用した「エビデンスに基づく刑事政策」について講義を行いました。刑罰理論研

究プロジェクトでは、ヘイトクライムの研究成果として金尚均編集代表『インターネット時代のヘイトスピーチ問題の法的・社会学的捕捉』（日本評論社）が発刊されました。さらに、2022年度は、株式会社小学館集英社プロダクションの寄付を受け、新たに矯正・保護歴史研究プロジェクトを立ち上げ、旧奈良監獄に保管されている矯正史料整理等に関する研究調査等を開始しました。

センターでは、教育・研究に加えて社会貢献活動を中心に新たな活動にも挑戦しています。ここでは、そのいくつかを紹介したいと思います。

2022年12月10日には、JR京都駅前の龍谷大学響都ホール校友会館において第12回矯正・保護ネットワーク講演会を開催しました。講演会では、「人にやさしい社会を目指して～Chance!!がつなぐ刑務所と社会～」をテーマに、少年院・刑務所専用人誌『Chance!!』編集長で株式会社ヒューマン・コメディ代表取締役の三宅晶子氏にご講演いただきました。必要なのは「支援」ではなく「応援」だというメッセージが聴衆の心に響きました。

また、2022年度も、社会貢献活動の一環として、センター長浜井が、奈良県更生支援のあり方検討会に参加するなど、兼任研究員や嘱託研究員が研究成果の社会実装という観点からさまざまな地方自治体における再犯防止の取り組みに協力しました。さらに、兼任研究員・法学部教授石塚伸一や研究フェロー福島至らを中心に刑法改正や裁判記録の保管等について新聞等に積極的にコメントを出すなどメディアでの情報発信にも努めています。

2023年度は、2022年12月に発覚した名古屋刑務所での職員による暴行事件を受けての刑務所改革や拘禁刑の施行に向けた準備、各地で第二次再犯防止推進計画が始まるなど再犯防止に向けた刑事政策の流れが一層加速されることが見込まれます。矯正・保護総合センターにおきましても、これまでの経験を踏まえ、2023年以降も、教育、研究、社会貢献のさらなる充実に努めていきます。引き続きよろしくお願いたします。

「人にやさしい社会を目指して ～Chance!!がつなぐ刑務所と社会～」 講演者：三宅 晶子 氏

はじめに ～私がなぜこの会社をはじめたのか～

皆さんこんにちは。株式会社ヒューマン・コメディの三宅晶子と申します。今日は貴重なお時間を割いて、ご参加くださりましてありがとうございます。「人にやさしい社会を目指して」というテーマで、『Chance!!』という求人誌の紹介と、社会にいる私たちにできることをお伝えさせていただければと思います。

初めに自己紹介がてら10分程度の動画をご覧ください。これはいまから7年前、ヒューマン・コメディという会社を立ち上げたばかりのころ「私はこれからこういうことをしていきたい」という宣言をして、たくさんの方に賛同を得るため、プレゼンテーションの大会に出たときに作った動画です。

動画に使用している映像や音楽がエモいと言いますか、好きじゃないと感じられる方もいるかもしれません。でもこの動画を見ていただくと、私がなぜこのようなことを始めて、いまもやっているかが伝わりやすいかなと思いますので、ご覧いただけますでしょうか。

講演者が出場されたプレゼンテーション大会の動画を約10分上映



(ご覧いただき) ありがとうございます。動画の最後に私が、「私たちが彼らの過去を価値に変えます」と大きい声で言っていましたが、いまは、まったくそう思っていない。この仕事を始めてすぐに、そんなことは到底できないと気づきました。過去を価値に変えることができるのは本人だけで、少なくとも当社にはそんな力はない。当社にできるのは一つでも多くのきっかけをつくることだと思い、いまは求人誌の掲載企業を増やすことに注力しております。

動画の最初にマツダコウイチ君という人物が出てきましたが、あれは架空の人物でフィクションです。まだ何をやるかも決めていなかったの、こんなふうに進めていくのかなと想像してつくりました。また、最後のビフォー・アフターの写真も、当社の事業とは関係ありません。社長や保護司など輝かしい現在を生活している友人で、昔、不良だった人に声を掛けて、昔の恥ずかしい写真と、いまの写真を送ってくださいとお願いしてつくりました。

(動画の) 真ん中の部分は事実に基づいています。私の姪っ子に、私の役をやらしてもらったりしてつくりました。台詞などもあの動画のままです。

ある少女との出会いと一緒に暮らす中での心の葛藤 ～彼女のおかげで気づかされたこと～

動画の中に出てきた、当時17歳で少年院に入った女の子が、さっき浜井先生がおっしゃった、(鹿児島県)奄美大島のゆずり葉の郷で出会った少女です。彼女の身元引き受けをして、2016年に1年間、一緒に暮らしました。本当に彼女から色々なことを教えてもらって、いまも引き続き、彼女のおかげで多少なりとも自分が成長させてもらっていると思っています。

一緒に暮らしていた1年間で、彼女は3回妊娠しました。「コンドームをつけなさい」と何度も言いましたが、まったく聞く耳を持たない。彼女は自分の父親からも母親からも、別々に虐待を受けたり、育児放棄をされたりしてきました。17年生きてきたうちの15年以上は施設で暮らしてきて、家庭というものを知らないの、むしろ死ぬほど家族がほしかったのだと思います。

彼女が東京に来て1月から一緒に暮らし始めて、3月には彼氏をつくりました。

いまの子ってリアルで会う前に、SNS(交流サイト)で付き合い始めちゃうんです。それで3月の終わりに初めてリアルでデートすることになって、彼が県外(地方)から東京に遊びに来たのですが、こちらとしては、もう嫌な予感しかありませんでした。

1日目の土曜日は遊んで帰ってきて、2日目の日曜日にもまた遊びに行って、夕方になって彼女から電話がかかってきました。(東京)池袋の東口の大きな交差点で電話を受けたんですが、すごく思い詰めた声で、「ママ、いまから彼と一緒に●●県に行く」「もう家へは帰らん



とか言う。

それを聞いて私は頭に血が上ってしまい、交差点のど真ん中で、「何言っとんじゃ、おまえはあ——!!」「男に代われ——!!」と、暴走族のような声を出してしまいました。まだ近くにいると言うので、会うことになりました。

保護観察が付いているから家出させるわけにはいかない。どうしようかと考えた結果、よし、許可を出して行かせるテイにしよう。待ち合わせ場所に行くと、彼女は彼の後ろに隠れて、もう私の顔を見ることもできない。「君のおうちはここだよ。だから1週間後にここに帰ってくるんだよ。これは旅費だよ」と言って、往復の新幹線代と、お小遣いを少し渡しました。

横にいた彼は同じ年でやはり少年院を出ています。まあまあね、あほみたいな顔していますわ。彼が私に向かって、「お母さん、ちよいちよい帰ってきますよ」とか言う。こっちは腹立ってしようがないけど、にっこり笑って、「うん、帰さなかったらね、承知しないよ」なんて言って見送りました。

肩を組んで去っていく彼らの背中を見送った、その日の夜に、私は、「ああ、うちの両親や祖母も、こういう気持ちだったのかあー」って初めて思ったんです。「ごめんね」って心から思いました。また、私たち夫婦には子どもがいないので、そんなことを気付かせてくれた彼女に対して、「ありがとね」と本当に思いました。



1週間後に彼女は渋々帰ってきましたが、彼と暮らしたくてもしょうがない。家庭裁判所に養子縁組の申し立て申請をしていましたが、彼女が「養子縁組はしません」と家庭裁判所に言い切って、取り下げることになりました。

私たち夫婦は、親として彼女に認められなかったような気がして、かなりショックを受けました。そして彼女と一緒に暮らす自信までなくしてしまいました。保護観察官に電話をして、そのことを伝えると、「じゃあ彼女には更生保護施設に行ってもらいましょう」と言われて。そうなるとうごく早いんですね。2～3日後には施設に行く段取りが決まりました。私は「これでよかったのかな、でもしょうがないよな」と思いましたが、何か心が曇っているので、仲のいい友人2人に話したんです。そうしたら2人に同じことを言われました。「自分に矢印を向けてみな」って。「彼女ばかりが悪いと思っているみたいだけど、自分はどうだったのかちょっと考えてみな」と言われて、最初は、「は？」みたいな感じで。「私が悪いわけじゃないじゃん」と思っていたけど、そこで初めて、振り返ったんですね。そうしたら自分が少女時代に一番嫌いだった大人になっちゃっていたなって気付きました。親とはこうあるべき、子どもとはこうあるべきみたいな型にはめて、彼女に言うことを聞かそうとしていたんです。

そもそも、なぜ養子縁組をしようとしたかという、少年院から身元引き受けをするという話になったときに、縁もゆかりもない人間が未成年の身元引受人になるのは難しかったんです。それで夫に「話が進まない」と話したら、「じゃあ養子縁組すればいいんじゃない」と言ってくれて。彼女にも手紙で聞いたら、「そうしたい」



と返事が来た。それを少年院に伝えたところ、「そこまで腹をくくっているのなら」ということで、身元引き受けの話が進み始めたんです。だから養子縁組は、最初は身元引き受けをするための手段だったんです。もちろん本当の親子になりたかったですよ。でも、手段だったはずなのに、いつの間にかそれが目的になってしまった。養子縁組しないのであれば一緒に暮らせないとと言われて、彼女は傷ついたらろうなと思いました。

里親や養護施設など、彼女はいろんなところを転々としていて、東京に来ることにいろいろ期待もあったと思うし、私との時間ももっと楽しいものになるという期待があったんじゃないかと思います。でも私は「部屋を片付けなさい」「ご飯つくってもらったんならお皿を洗いなさい」とか、そんなこと言ってばかり。ぶつかってばかりだったので、全然、楽しくなかったらうし、「ああ、そっか」と思って。

夫に「もう一回、仕切り直して彼女と暮らしたい」と言ったら、「いいよ」と言ってくれたんです。それで保護観察所に電話して、一緒に暮らすことにしました。





一緒に暮らした1年間で彼女は3回妊娠しました。1回目と2回目は流産して、3回目に妊娠したとき彼女は我が家を出て、彼氏と一緒に暮らし始めましたが、その彼は1ヶ月くらいで逃げてしまいました。すぐに別の彼氏ができて、その彼と暮らすようになり出産しました。でも、1年後にはDV（ドメスティック・バイオレンス）をされるようになり、電話がかかってきて、赤ん坊を連れて家を飛び出たと言う。もうね、電話がかかってくるのは、そういう用事なんです。悪い知らせしかないみたいな。今度は何ですかっていう感じでした。いまはそんなことないですよ。

彼女は他県にいますけど、NPO法人マザーハウスの五十嵐（弘志）さんをお願いして生活保護申請の支援をしていただき、生活保護を受けられるようになりました。

そうしたら、また新しい彼氏がすぐにできて、また子どもができて、また逃げられました。

私は2番目の子どもの出産に立ち会いましたが、すっごく面白かったです。感動して号泣するかと思ったけど、私は出産したことがないから、「わあ、本当に人間がお腹に入っていた」「何か電話線みたいなのが出てきた、先生、早く縫ってあげて」「は一、お疲れみたいな感じで。

彼女が生活保護で暮らし始めて、最初に私、「何かお金に困ったら人に借りるより、まず私に言いなさいね」って言っちゃったんですよ、頼まれてもいな

いのに。そうしたらお金の依存がしばらく続きました。返す当てなんてないのに、「貸してくれ」、「貸してくれ」と。1ヶ月に一度だったのが2週間に一度になり、1週間に一度になったため、「ちょっと話し合おう」と言いました。

その当時、私は会社（株式会社ヒューマン・コメディ）からずっと報酬を受けとっていなかったんです。今年の7月からはちょっと報酬を受けとるようになりましたけど。私自身は、納棺師として生計を立てているんですね、ご遺体を棺に納める仕事をしているんです。「私、君より収入ないよ」って言ったら、Twitterで彼女が私のことをボロクソに書いたんですよ。「いい年して生活費も払わずに生活しているそっちと、子ども2人抱えてぜんぶ自分で生活してるこっちじゃ立場が違うんだよ、分かんねえのか、バカ」とか（笑）。彼女は、私が彼女のTwitterアカウントを知らないかと思ってみたいですね。それを読んで、ムカツと来ましたが、これはちょうどいいと。どこかでこの依存関係を切らなければいけないかと思っていたので、これを機に一線を引こうと決めて、彼女に「Twitterを見たよ、傷ついたわ」「もうお金の支援はしないよ」と言いました。その後、「電気代が払えない」「ガス代が払えない」とか言ってきましたけど、「おお、サバイバルせえ」と突き放したので、生活保護のお金で生活するしかない。そうしたら、彼女はそれで生活できるようになったんです。

いま、私がこの仕事をするときに、一番大事な根拠として考えるのは、自分の言動が相手の自立の背中を押しているのか、それとも邪魔しているのかということです。いまでもいろんな場面で揺れることはいっぱいありますが、でも、揺れたらここに、常に立ち返るようにしています。そういう視点を持てるようになったのは、本当に彼女のおかげです。

彼女は少年院に入る前に窃盗癖がありましたが、1回も再犯していません。口が悪いしひどく子どもを

叱ったりしますよ。叱るっていうか、切れて怒る。でも、愛情もって育てています。すごいなって思います。

いま上の子が5歳で、下の子が3歳です。2年ぐらい前ですかね、子育てでもう彼女がどうにもならなくなって、感情をコントロールできないようなときに、何度か電話をくれたんです。電話口で聞いていると、まあひどいことを言っています、子どもたちに対して。主に上の子なんですけど、「ご飯食いたいっつうからつくったのに、何なんだよ!」とか、「おまえのこと殺してえんだよ!!」とか。聞くに堪えないような言葉を言うんですけど、叫んでいるんですけど、でも彼女自

身がこういうふうな言葉を、あるいはもっとひどいことを言われてきたんだろうなと思うので、私はずっと黙って聞いています。

そうしてガスが抜けると、声が少し笑うようになる。それで普通に会話できるようになって、電話を切ります。私は、そのときは何も言わないけど、後から、彼女が「怒りすぎてしまう」みたいな話をしたら、「もしそう思ったんなら、後から子どもに謝んな。そうしたら、君は君のことを好きでいられるから」と伝えていきます。

求人誌『Chance!!』とは ～本当に困っている塀の中の人を助けたい～

では、求人誌『Chance!!』をどのようにつくっているかという本題に入ります。『Chance!!』は少年院・刑務所専用の求人誌です。お手元にお持ちかと思えます。全部同じナンバーではなくて、バックナンバーを何種類か用意し、配布させていただきました。手元の資料では配布先を3,700部と書いていますが、年4回発行していて、1回あたり、いまは4,000部つくっています。全国の少年院、刑務所、拘置所、あと更生保護施設、保護観察所などに配布しています。受刑者個人からも、「ゆっくり読みたいから送ってください」という請求が来たら送っていて、1,000人くらいに送っています。

実は、『Chance!!』をつくる前に、有料職業紹介事

業としてスタートしましたが、そのときは全然うまくいきませんでした。

まず当社の存在を少年院や刑務所を出た人たちに知らせるすべがなく、なかなか人材が来ない。どうにか人材が来て、面談をして、協力企業に紹介しても、飛ぶ（行方不明になる）、逮捕される、問題を起こす。当然、全然収入も入ってこないし、誰も救っていない。そんな感じでした。本当に困っている人は塀の中にたくさんいるはずだと思うけど、その人たちに当社の存在を知らせることができなかつたんですね。それで、求人誌をつくって配ればいいんだと思いついて、2018年の3月から『Chance!!』をつくっています。

応募率の高い会社は、「代表者メッセージ」にアットホームさがある会社、母性のようなものを感じられる会社です。例えば「私（社長自身）が保護観察中の社員の夕ご飯をつくります」とか、あと「週末はよくみんなを銭湯に連れていきます」とか、そんなメッセージが紹介されている会社に応募が比較的集まります。あとは給料や福利厚生など条件や生活環境が良い会社で、具体的な数字が書いてある会社も応募率が高いです。

逆に、応募率の低い会社は、「ですます」調ではなく、「そうだ」「である」調の文体で文章がちょっと硬い会



社や、熱いメッセージの会社ですね。例えば「俺を信じる。俺もおまえらを信じる」みたいな感じだと全然応募は来ない。たぶんうっとうしく感じるんだと思います。自分でも、そうかなと思います。

出所者の声でよく聞いていたのは「刑務所内にハローワークの求人票が貼ってあったけど、見てもよく分かんないから見なかった」と。要は求人票に、給料、業種、勤務時間などが書いてあっても、どんな会社なのか全然イメージできないということだと思います。

やっぱり塀の中にいる人たちにとって一番気になるところは、ここで自分がやっていけるのかどうか、この会社になじめるのかどうかとかだと思つので、『Chance!!』をパラパラとめくって、社長のメッセージや顔写真を見て、何となく、ああ、いいなって思ってもらえるような、その会社の雰囲気がわかるようなつくりをしています。

ほかに出所者の声として聞いていたのは、「出所者を積極雇用している会社に入ったが、超ブラックな会社だった。連日サービス残業で、寮も狭い部屋に何人も押し込まれて、プライバシーとかがなくて、それで嫌になっちゃって飛び出しちゃった」とかですね。片方からしか話を聞いていないので、真偽のほどは分かりませんが。

ただ、そういう話を何度か出所者から聞いたので、彼らを守るために寮や社宅などの住居支援、出院・出所後の当座の生活費の支援など、最低限お願いしたい6つのことを掲載条件にしています。その条件に合うか、あるいはクリアできる会社に対して、初めは必ず代表者の方と1時間から1時間半お話をさせていただいた上で、当社が掲載するかどうかを決めさせてい

ただいています。

「(掲載は) やめた方がいいと思いますよ」と言ったりもします。「リスクってあるんでしょうかね」と、リスクの「リ」が出た時点で、「はいさようなら」という感じですね。そんなのあるに決まっている。少年院や刑務所を出ていない人間を雇用する場合だってリスクはあるのに、1回、法を超えているんだから、法を超えるハードルは普通の人より低いに決まっています。

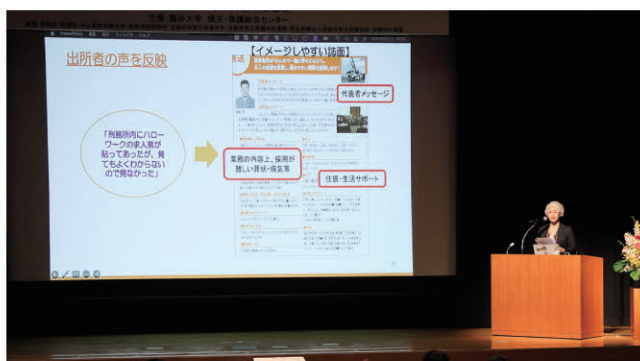
冊子には「Chance!!専用履歴書」がついています。A4で4枚、ガッツリ書いていただきます。もちろん罪歴は要配慮個人情報といって、むやみに取得してはならない個人情報なので、任意ですが。

ただ、普通の履歴書だとみんな、あんまり書けないですよ、書けないどころか隠さないといけない。だったら、もういっそ、全部さらけ出しましょうと。

特に履歴書の2枚目の中ほどにある、「今回/直近の事件の背景・きっかけ」という欄を見ると、その人が自分の起こした事件についてどう捉えているのか、いまだに人のせい、他人のせいにしてているのか、それとも自分が起こした責任を感じていたり、内省していたりするのかということが、結構、浮かび上がります。中にはきれいに、つらつらと嘘を書く人もいますが、意外と皆さん、本当のことを書いているなと思います。

掲載企業は履歴書を見て、この罪状はちょっとあれだけど、でもここまで誠実に書けるなら会ってみたいになって思うのか、それとも、いや、ちょっとこの人は、うち(自分)の手には負えないと、採用を見送るのか。覚醒剤で7回入所は難しいけど、ちょっと文通して様子を見てみよう、なのか。この履歴書で掲載企業には意向を決めていただいています。

『Chance!!』を通じて応募した人、内定した人の定着率の高さは、この履歴書の効果によるものだと私は思っています。出所者雇用の業界では8割、9割の人が飛ぶ、行方不明になるということが本当に当たり前と言われていますが、『Chance!!』は半年以上の定着率が直近だと42.8%で、1年以上の定着率が26.0%なので、新卒採用とそんなに変わらないのではないかと



と思っています。

“業界あるある”としては、無断欠勤から行方不明になる、スマホや家電の持ち逃げ、社有車の持ち逃げなどがあります。

また、『Chance!!』の応募者も含め、少年院出所者や出所者は、家庭環境が複雑だったり、虐待、貧困などの背景が非常に多く見受けられます。自己肯定感が低く、相手への依存傾向が強い人が多いと思います。でも相手を変えることなんてできないので、私は少なくとも、本人が再び犯罪をして少年院や刑務所に戻ったとしても、それも必要な学びの時間なんだというふうに捉えています。

出所者雇用でうまくいくかどうかは、誰でも受け入れるのではなく、少年院・刑務所に入っている期間に相手をよく見て選定すること。まずはここだと思います。

それから、「支援してやる」という気持ちの強い会社は、あまりうまくいきません。むしろ「採用は慈善事業ではないので、会社の利益となるよう頑張ってもらおう。その代わりに働く環境や生活環境を整えて、給料も頑張った分だけ上げる」と、ビジネスとして割



り切っている会社のほうが定着率が高く、再犯も少ないです。

また、「なにかあったら相談してね」では人は相談しません。社長の方から声を掛けたり、同じ立場・同じ視点に立って、住民票の移動や弁護士費用の立て替えなど、本人が困っていることを解決してくれる会社は、社員が残ります。

『Chance!!』掲載企業の多くが、何で『Chance!!』に載せているのかということ、「一般の人よりも覚悟を持ってよく働く」「一生懸命働く」と、出所者雇用を評価して、価値を見いだしてくださっているからだと思います。そうおっしゃる企業は多いですね。

私たちにできること ～「支援」ではなく「応援」～

ある出所者から聞いた話ですが、刑務所の中で、受刑者雇用支援をしている多くの企業の講話を聞いたり、就労フェスや説明会で話を聞いたりして、そういう団体の人たちをたくさん見てきた。しかし、そのほとんどが「支援してやる」「雇ってやる」「助けてやる」という上からの目線だったとあって、その方は涙を流していらしたんです。それは、おそらく人としてまともにも扱われなかったという悔しさだと思えます。でも、支援者側の人たちはそんなことに1ミリも気付いていない。むしろいいことをしていると感じていると思えますね。そこに大きなギャップがあって、支援って難しいなと思います。なので、支援の押し売りになっていないか、気をつけることが必要ではないかと思えます。

次に、ある支援者側の話をします。NPO法人自立準備ホーム香川・止まり木という、出所者雇用に限らず、生活困難者の支援をしている団体が香川県にあります。この春まで止まり木の代表をしていた大塩幸子さんという、70何歳だったかな、年を言うと怒ると思うけど、すごい楽しいおばちゃんがあります。

お酒が大好きで、飲み会の後、大塩さんとご主人をタクシーに乗せてみんなで見送ると、窓をすっと開けて、自分で「ご出棺～～～！」とかって言って、去っていく。残された私たちは爆笑みたいな感じなんですけど、その人から聞いた話です。

覚醒剤で逮捕された20代の女の子が入所者の中にいて、彼女は母親の内縁の夫から覚醒剤を打たれてレイプされ、それに嫉妬した母親から売春を強要さ

れていた。その子は肌が荒れていて、背中とか体中に吹き出物がすごかったらしいです。

大塩さんは、彼女の背中に薬を塗ってあげながら、この子はたぶん風俗に流れていけよう、だったら、この子の肌がきれいになって、少しでも高く売れますようにと願いを込めて薬を塗っていたんだと聞いて、私は号泣しました。「風俗なんて行っちゃ駄目」とは誰でも言える。でも止めることはできないわけですよ。おそらく風俗に流れていけよう、それでも、少しでも彼女が幸せでありますようにと祈ったと聞いて、支援者としての「あり方」を見せて頂いたような気がしました。

その女性以外のほかの出所者の人たちも、「ここ（止まり木）は応援してくれる」って言うんですね。「再犯しちゃ駄目」とか押しつけられたら、「もうそんな

ん、分かってるのに」と思っちゃうけど、応援されたら頑張れると。あと、助けてもらいたいわけではなくて、ただ、たまに電話して、大塩さんの声を聞いたら安心するって、出所者の方がそんなふうに言うそうです。彼らが求めているのは「支援」ではなくて「応援」なんだと思います。



非行や犯罪はなくなるか？ ～「2-6-2の法則」～

「2-6-2の法則」とか「2-8の法則」って聞いたことがある方もいらっしゃると思いますが、自然界で集団行動を形成する生き物には、人間ももちろんそうですが、バランスがあるのだといいます。上の2割は優秀層、ハチで言うと働きバチ。真ん中の6割は普通の層、ミツバチ。下の2割はまったく働かない層ができる。これは学校や会社で考えても結構、当てはまると思います。

小田原少年院で昔、院長を務めた方から聞いた話ですが、2割の少年が問題行動を起こすと。そこで少年院をよくしようと思って、問題の多い2割の少年たちを、それぞれ近隣の少年院に移動させたところ、それまで問題のなかった少年たちの中から、次々と問題を起こす子たちが現れて、またちょうど2割、問題行動を起こす層が形成されたといいます。

だから絶対的なバランスがあるんですね。おそらくその集団を維持していくため、何かあったときに備えるために、そういうバランスになっているのだろうと思います。

かつての私、少女時代は自分がその下の2割でしたが、いまは少年院や刑務所に入っている人たちがその役割を担ってくれているんだというふうに思います。だって、絶対的なバランスですから。

なぜそんなバランスが必要なのかというと、あくまで私は、人が善悪を知って、善い行いをするためじゃないかと思っています。闇がないと光は見えない、昼に花火を上げて、その花火の価値は分からないですよ。でも、悪い行いを見ることで、ああしちゃいけないかと思える。そういうことなんじゃないかなと、私は勝手に思っているんです。

だからその2割の問題行動を起こす人たちを仮に別のところに移送したりしても、必ずまた2割できるわけだから、そこだけなんとかしようとしてもしょうがない。全体的に底上げするしかないんじゃないかと思っています。

今の社会に必要なものは ～「想像力」と「感謝」～

では、底上げするためにはどうしたらいいのか。村木厚子さんが、ここでも講演されたと聞いていますが、厚生労働省の官僚だったときに「郵便不正事件」という冤罪で逮捕されて、164日間勾留されていました。そのときに学んだこととして、人は誰でも一夜にして支えられる存在になるんだと。

それまで村木さんは、「何となく自分は支える側だと思って生きてきた」とおっしゃっていたのが、すごく印象的でした。本当に何かの拍子に生活が一変してしまうということは、誰にでも起こり得ることで、ある日、病気や天災で、自分が働けなくなったりしたときに、家賃が払えなくなったときに、自分は絶対に犯罪をしないと切り切れるだろうか。私はまったく自信がないです。そういう想像力が大事だなと私は思います。

でも、人ってなかなか目の前に起こっていないことを想像するのは難しいですね。じゃあどうするかとなったときに、自分がいま犯罪をせずに生活できている、それは自分だけでなし得たことだろうか、考えてみるとよいのではないかなと思うんです。

私たちの多くは、犯罪をしないのは当たり前のこと。自分は犯罪者側じゃないと感じていると思いますが、でもそれは、先祖から受け継がれてきたもので、自分がつくったものじゃないんですよ。そして、犯罪者、



加害者の中には、先ほどもお伝えしたように、もう今日、食べるものもないみたいな貧困家庭や虐待の中で育った人、スタートが圧倒的に違う人が多いと思います。なので、自分が犯罪をしなくてもいい環境にまいられることに、感謝できているかなって。

私がいろいろな事件を見て、いろいろなニュースを聞いてまず感じるのは、その犯人に対しての怒りなんです。何でこんなことをするのか、許しがたいという怒りが湧きますが、でも、そのたびにここに立ち返ります。私は自分が犯罪をしなくてもいい環境にいられることに、いま感謝できているだろうか自分自身に問います。そしてあらためて「有り難いなあ」と感じる事ができると、「何が彼にこうさせたのだろう」「どんな環境で生きてきたのだろう」という想像力になり、「自分に何ができるだろう」と考えることができる。そうしたものだと思います。

おわりに ～今後の目標～

これまでは寮や社宅、給料の前貸しや一部日払いによる当座の生活費支援などを掲載の必須条件にしてきたので、現在、『Chance!!』の掲載企業は建設系が多めです。でも、そろそろこの縛りを外そうと思っています。もっと業種を増やして、掲載企業を各都道府県1社以上に増やすのが、当社の今後の目標です。

また、いくら当社がいい環境の会社を選んでも、本人のものごとの見方や捉え方が逮捕前と変わらなければ、結局、同じことが起きてしまうのを何度も見てき

ました。本当に人生って、いい方に捉えるかどうかで変わります。なので、人生を変えるきっかけとなるような、教育というところちょっとおこがましいですが、ものごとの見方や捉え方を変える種まきをする講座をいま、前橋刑務所でやっています。今後はそれを広げて展開していきたいなと思っています。

今日はどうもありがとうございました。

(講演終了)

質疑応答

(※今回は、新型コロナウイルス感染防止のため、講演終了後、講演者に質問がある参加者から質問用紙を提出してもらい、主催者側で質問内容を選び、司会者が講演者に質問する形式をとった。以下は当日の質疑応答のやりとりである)

司会 すみません、質問を多数いただいております。時間の許す限り三宅様に会場からの質問にお答えいただきたいと思います。まず「最後にお話しされていた講座の内容をもっと詳しく知りたいです」というコメントです。お願いいたします。

講演者 福岡県博多市にあるヒューマンハーバーそんとく塾という一般社団法人で開発されたプログラムで、「心のスポンジ作りプログラム」といいます。更生を目的に、「置き換え」という手法により本人が「自分の何を変えようとしているんだ」と構えることなく、素直な心でスポンジが水を吸うように学び、気づき、納得することができるようになるというプログラムです。これを主とした講座をしています。

司会 ありがとうございます。「心のスポンジ」、なかなかすてきな言葉だと思いました。

それでは次の質問です。「収益・収入があまりないとおっしゃっておられましたが、活動資金について詳しく説明していただきたいです」ということです。「国からの補助などはどうなっているのでしょうか」という質問です。

講演者 国からの補助は一切ないです。求人誌に掲載企業からの掲載料でつくっています。いまのところ、それだけですかね。今年の3月から教育事業に力を入れていきたいと考え始

めました。ただ、教育(事業)は(現在の)株式会社(会社)で収益化を図るのが難しく、私はやり方が分からないので、一般社団法人を立ち上げました。ここで補助金や助成金を募ります。

司会 ありがとうございます。

では、次に『Chance!!』に掲載されている職種は土木建設や製造業が大部分を占めておりますが、体が弱い方や持病で力仕事ができない方からの相談にはどのように対応しているのでしょうか」という質問です。

講演者 いまのところはあまり対応できていないです。なので、今後はそういった土木建設系ではない企業を増やしていきたいと思っています。

司会 ありがとうございます。ちょっと似ていますが、また別の角度から。「自分の心が折れそうになったときの支えは何でしたか」という質問です。

講演者 お酒。ははは。

司会 お酒は一人ですか。それとも楽しく。

講演者 いろいろです。私、人と飲むのも好きですし、一人でも二日酔いになるぐらい酔っぱらっ





たりするんですね。お酒の味も大好きで。いいか、この話。

司会 なるほど。ありがとうございます。「女性の方の雇用は、男性と比べてどういう状況でしょうか」という質問です。

講演者 そもそも女性の刑余者の数は男性の10分の1くらいです。その中で女性は、過去をオープンにしない傾向にあると思います。なので、応募が非常に少ないです。いままで女性の内定者は1人ですね。

司会 ありがとうございます。それから「まったく内定をもらうことができない方はおられましたか。いままで一番長く続いた方は、どのくらいの期間で、どんな経歴で、どんな職種でしたでしょうか」という質問です。

講演者 一番長いのは、『Chance!!』を創刊した年の8月に入った子なので、4年半くらいですか。あとの質問は何でしたっけ。

司会 一番長かったものと、それから「まったく内定をもらうことができない方はいらっしゃいましたか」ということですね。

講演者 もちろんいらっしゃいます。何回、何社応募しても受からない。そのまま出所という方もいらっしゃいます。

司会 いまの質問に関連するかもしれませんが、「やはり犯歴によっては就業が不可ということもあるのでしょうか」という質問です。

講演者 求人広告の中で「業務の内容上、採用が難しい罪状・病気等」を記載する欄があって、そこで自分の会社ではこういうものはNGというのを掲載してもらっています。多くの会社は、覚醒剤累犯や性犯罪はNGとしていますが、中には「罪名を問わない」という会社もあります。

司会 ありがとうございます。他にもいくつも質問が来ているんですけども、ちょっと内容がだいたい重なってきますので、次の質問を最後にさせていただきたいと思います。「三宅さんにとって、『人にやさしい』とは何でしょうか」という質問です。いかがでしょうか。

講演者 その人の目に見えないところを考えたり想像して、見ようとする力かなと思います。

司会 大変難しい質問ですけど、三宅さんの優しさはすごくあふれて伝わっていたのかなと感じているところです。

皆さまからいただきました質問につきましては、後ほど三宅様の方にお渡ししたいと思います。それでは、予定していたお時間となりました。以上をもちまして、質疑応答の時間を終了とさせていただきます。質問用紙を提出した方で本日質問が読み上げられなかった方につきましては、誠に申し訳ございませんでした。会場の皆さま、いま一度、三宅様に大きな拍手をお送りください。

(会場拍手)

第13回 矯正・保護ネットワーク講演会開催案内

主催：龍谷大学矯正・保護総合センター

参加費無料

要事前申込

先着300名様

テーマ

子どもの声に耳を傾ける ～少年非行の現場から～

2023年12月9日(土)

13:30～15:00(開場 12:30～)

龍谷大学 ^{きょうと}響都ホール 校友会館

(京都市南区東九条西山王町31 アバンティ9階)
JR京都駅八条東口より徒歩約1分



講演



ほり いちほ
堀井智帆氏

(スクールカウンセラー／スクールソーシャルワーカー
(元福岡県警察少年育成指導官))

>プロフィール

大学で社会福祉・児童福祉を専攻。
傷ついた子どもたちを救いたいと児童養護施設で勤務した後、家庭にいる親子を支援したいと福岡県警察・少年育成指導官として21年勤務。
現在は非行・ひきこもりなど親子支援のスペシャリストとしてフリーランスで様々な場所で相談支援業務を行っている。
2020年にはNHKテレビ「プロフェッショナル 仕事の流儀」に出演。著者に「非行少年たちの神様」(青灯社)。

参加お申込み

参加をご希望される方は、事前にお申込みが必要です。

インターネットから

- ①矯正・保護総合センターホームページ(<https://rcrc.ryukoku.ac.jp/>)の「講演会等のお申込み・資料請求」ボタンをクリックしてください。
- ②「お申し込みフォーム」の必要事項(名前・住所・メールアドレスなど)を入力し、内容確認後、送信ボタンをクリックしてください。
登録されたメールアドレスに受付完了メールを返信いたします。

FAXから

以下の参加申込書に必要事項をご記入の上、送信してください。

お問い合わせ

龍谷大学 矯正・保護総合センター

TEL:075-645-2040 FAX:075-645-2632

〒612-8577 京都市伏見区深草塚本町67

<https://rcrc.ryukoku.ac.jp/>

E-mail: kyosei-hogo@ad.ryukoku.ac.jp

2023年12月9日 第13回矯正・保護ネットワーク講演会参加申込書

フリガナ	当てはまるものに○をしてください。						
お名前	年齢	10代	20代	30代	40代	50代	60代
		70代以上					
ご住所	〒						
電話番号	FAX番号						
メールアドレス	ご所属・ご職業 (差し支えなければ)						



075-645-2632

研究活動紹介

矯正・保護歴史研究プロジェクトの研究活動について

2016(平成28)年に成立した再犯防止推進法により、近年、犯罪や非行からの立ち直りに関する各種の取組が各地で展開されてきています。これまで、法務省所管行政として矯正や更生保護としての働きが、「司法福祉」や地方行政、あるいはソーシャル・インパクト・ボンド(SIB)といった民間活力を活用した社会的事業として、「矯正・保護」の領域が拡大している状況にあります。

持続可能な開発目標(SDGs)として国連が採択した17の取組を包括する「誰ひとり取り残さない」社会の実現を目指す上でも、犯罪や非行にあった方々への支援は政策上も大切な取組の一つとして位置付けることも可能といえます。

当センターでは株式会社小学館・集英社プロダクションからの委託を受け、2022(令和4)年から、矯正・保護の歴史に関するプロジェクトが展開されてきています。その背景には、法務省が2017(平成29)年に発表した「旧奈良監獄の保存及び活用にかかる公共施設等運営事業について」に基づく、矯正史料等の保存・活用に関する学術的な支援の必要性が存在しています。

それは、これまでとは異なる、地方自治体や民間事業者等の様々な立場の方々が再犯防止推進に関わる様々な事業等に関わっていく上で、これまでの、矯正・保護の取組を歴史的観点からその展開と今日的課題を明らかにすることは、まさに温故知新としてとても重要なことだといえます。また、矯正・保護の活動を広く市民・社会の方々に知っていただくためにも、矯正施設等が保有する建造物も含めた史料等を公表・公開していくことも、新たな取組として求められてきているところでもあるといえます。

このような背景・観点から、当センターにおける矯正・保護歴

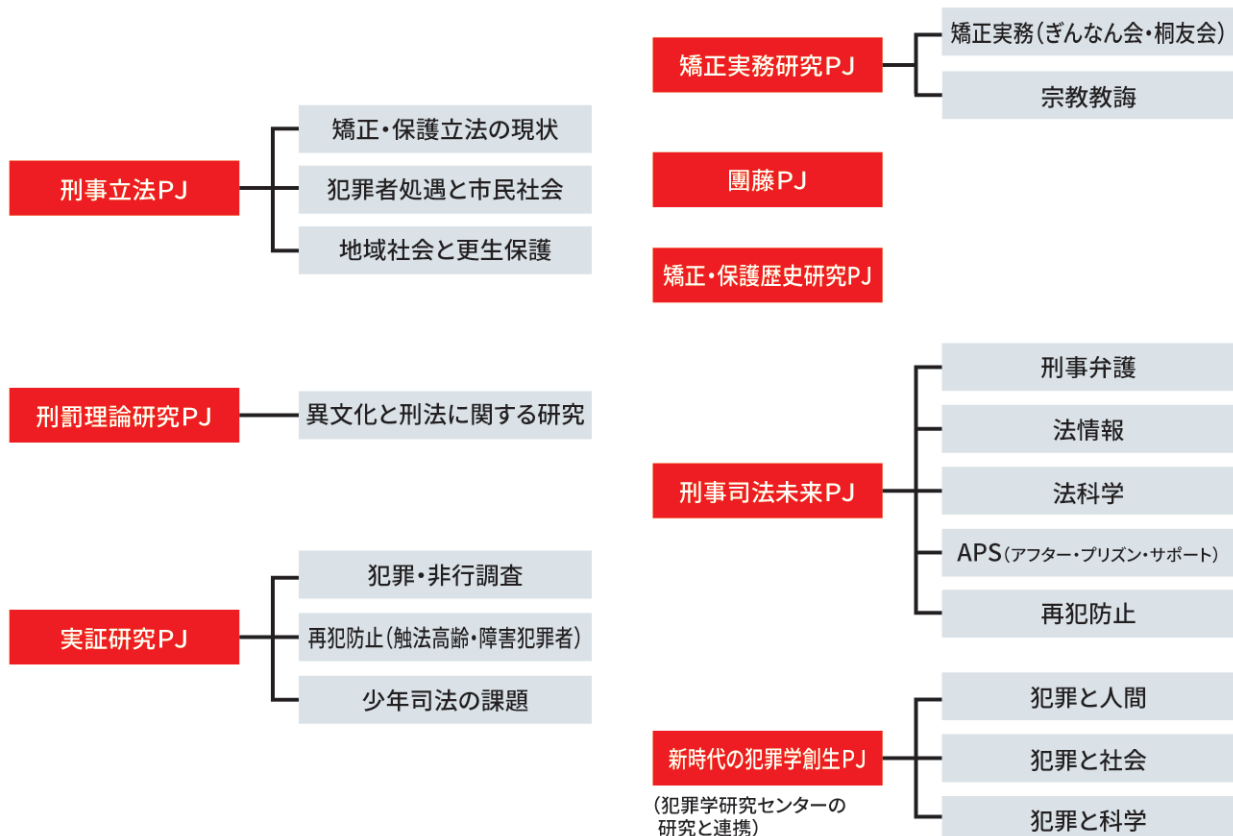
史研究プロジェクトが開始されています。その取組は大きく二つ、一つは旧奈良監獄に保管されている矯正関係史料の整理と公開・展示等に向けた学術的支援、二つ目は、それを踏まえて矯正史料等を展示・公開している月形町立月形樺戸博物館等の他の施設と共同した矯正史料等の活用に関しての検討、の二つです。

これらの取組の成果が、再犯防止推進の一助になるだけでなく、さらには、明治以降の監獄等において、ブリコラージュともいえる人が人を処遇するため、さまざまな現場における試行錯誤を、体系的に把握・整理することにより、かつては、刑罰執行のための施設管理としての「監獄学」とされていたものを、集団生活とそれを支える処遇や更生への働きかけ等を「矯正学」として再構築していく、その基礎的研究となることをも目指しています。さらに、付言するなら、矯正施設に内在している、施設の管理運営、集団の規律秩序維持、適正な刑罰執行、安定した生活の提供・維持、そして、なにより更生に向けての働きかけ、といった他の組織・機構にみられない、それぞれが対立しえる多目的で多様な対応が必要とされている矯正という現場において、その対立・課題を止揚しつつ安定した施設運営を継続するための様々な知見等を明らかにすることは、予測困難な時代といわれる現代の様々な課題対応等の一助となりえるとの期待も抱いているところです。今後の展開とその成果にご期待ください。

矯正・保護歴史研究プロジェクト

中島 学(龍谷大学法学部客員教授・福山大学人間文化学部教授)

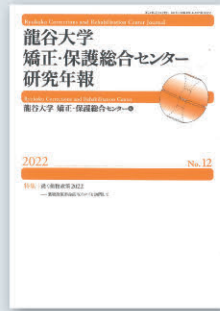
2023年度 矯正・保護総合センター研究プロジェクト



新刊情報

『龍谷大学矯正・保護 総合センター 研究年報 第12号 2022年』

[編集発行者]
龍谷大学矯正・保護総合センター
[発行所]
株式会社現代人文社
[発行日]
2023年2月28日発行



ISBN978-4-87798-832-6

『矯正講座 第42号(2022年)』

[発行者]
龍谷大学矯正・保護課程委員会
[編集者]
『矯正講座』編集委員会
[発売所]
株式会社成文堂
[発行日]
2023年3月18日発行



ISBN978-4-7923-3427-7

『インターネット時代の ヘイトスピーチ問題の 法的・社会的捕捉』

[編著者]
編集代表: 金 尚均
石塚武志 魁生由美子
濱口晶子 山本崇記
[発行所]
株式会社日本評論社
[発行日]
2023年2月24日発行



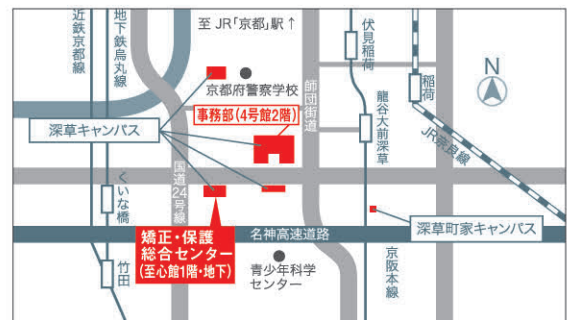
ISBN978-4-535-52726-3

『刑事司法記録の 保存と閲覧 —記録公開の歴史的・学術的・社会的意義』

[編著者]
石塚伸一
[発行所]
株式会社日本評論社
[発行日]
2023年2月24日発行



ISBN978-4-535-52724-9



龍谷大学 矯正・保護総合センター

- 京阪「龍谷大前深草駅」下車徒歩約8分
- JR奈良線「稲荷駅」下車徒歩約13分
- 京都市営地下鉄烏丸線「くいな橋駅」下車徒歩約5分

〒612-8577 京都市伏見区深草塚本町67
Tel.075-645-2040 Fax.075-645-2632
URL <https://rcrc.ryukoku.ac.jp/>
E-mail kyosei-hogo@ad.ryukoku.ac.jp